

## 令和2年度 第3回紀の川市まち・ひと・しごと創生総合戦略審議会 議事録要旨

【開催日時】 令和3年1月19日(火) 14時00分から15時10分まで

【開催場所】 紀の川市役所 本庁3階 庁議室

### 【出席者】

○紀の川市まち・ひと・しごと創生総合戦略審議会(委員8名内7名出席)

野村委員(紀の川市立地企業連絡協議会 会長)

川端委員(和歌山県那賀振興局長)

仁藤委員(近畿大学生物理工学部地域交流センター センター長)

立元委員(株式会社日本政策金融公庫和歌山支店 支店長)

中村委員(株式会社和歌山放送 代表取締役社長)

林委員(紀の里農業協同組合総合企画部 部長)

根 委員(紀の川市自治連絡協議会 会長)

【欠席】

濱畑委員(和歌山公共職業安定所 所長)

○事務局(企画部・企画経営課)(3名)

角企画部次長兼企画経営課長、児玉、西川

○傍聴人(0名)

### 【会議の概要】

1. 開会(14:00)(司会:角次長)

2. 会長挨拶

紀の川市まち・ひと・しごと創生総合戦略審議会 仁藤会長から挨拶。

3. 議題

○議長(仁藤会長)

「会議を公開」するために簡潔に取りまとめた議事録と写真の公開並びに音声録音の承諾。  
委員の過半数以上が出席しているため、会議が成立していることを報告。

議題 i) 第2期紀の川市まち・ひと・しごと創生総合戦略(案)について

資料をもとに、第2期紀の川市まち・ひと・しごと創生総合戦略(案)の内容について説明。

また、今後の予定（議会報告・パブリックコメント）について説明し、審議を求める。

【質疑】

委員：公共交通を軸としたという表現が見受けられるが、例えば、紀の川市の公共交通では、和歌山線、貴志川線等があるが、縦の移動が限定されている。地域巡回バス以外にも、将来的に交通・輸送の面で方策はあるのでしょうか。

観光推進等を考えると、公共交通は重要です。高齢化も進む中で、移動手段がなく、病院などへ行くために、早朝から巡回バスを利用して、30～40分を要してしまう、このような点も含めて、公共交通に関する市としての考え方を聞かせていただきたい。

事務局：公共交通としては、JR和歌山線をはじめ貴志川線などが代表的なものとなりますが、この公共交通への繋がりとして、地域巡回バスを考えております。

しかしながら、現状の地域巡回バスは、始点から終点までの距離が長く、目的地に行くまでに、長時間の乗車が必要などの弊害もあり、面的には地域を網羅しているというメリットがあるが、希望の目的地に短時間で行けないというデメリットの部分もあります。

こういった課題を解決するために、ダイヤ改正やコンパクトな路線の構築等により、目的地に短時間で到着できるよう検討を行うとともに、路線同士の接続点を多くし、乗り換えを活用する方策も検討し、公共交通を軸とした移動環境の充実を図りたいと考えています。

委員：基本方針において、将来展望人口の達成を目標と定めていますが、施策による効果の積み上げで、目標数値を設定しているのでしょうか。

また、20ページでは、2024年度において「社会増減数0」を目標値としており、高齢化や人口減少が進んでいる状況の中で、達成することは相当な力仕事だと思ふ。

労働生産性を高める施策やAI・ICT等の活用、その他、様々な施策を講じていく必要があると思いますが、目標設定についての考え方を聞かせていただきたい。

事務局：将来展望人口は、昨年度（令和元年度）に改訂を行った、紀の川市人口ビジョンにおいて設定したものです。

算出方法については、各施策による効果の積み上げではなく、今後の人口推移を算出するうえで、一点目は、市民の希望出生率を基礎としている算出している点、もう一点は、社会増減数ということで、総合戦略における基本目標Ⅱに定めている、「社会増減数0」を基礎として、今後の将来展望人口を算出しています。

人口減少に歯止めがかからない状況の中、高い目標設定となりますが、様々な施策への取組や積極的な移住・定住の促進のための事業を展開し、目標達成に少しでも近づきたいということで、総合戦略に基づき地方創生を推進したいと考えています。

委員：相当高い目標設定だと思いますが、長期目標である 2060 年までの間は、「社会増減数 0」の継続を想定して算出しているのでしょうか。

事務局：2060 年までの間は、「社会増減数 0」の継続を想定して算出しています。

また、目標達成のハードルはかなり高いとは考えています。実際、国の社人研の推計（国が算出する統計人口）では、2060 年における推計人口が約 3 万人（29,800 人）と想定されています。

しかしながら、今後の人口減少を少しでも抑制するという観点から、まずは短期目標の達成に向けて総合戦略に基づいた取組を進めたいと考えています。

委員：インフラ整備に関して、京奈和自動車道が重要物流道路に指定される予定と聞いており、このことが、京奈和関空連絡道の早期着工につながると感じています。

県道泉佐野打田線の 4 車線化についても工事が進捗しており、特に紀の川 I C 周辺の区域は、紀の川市の中核となり、様々な物流の拠点、あるいは工場など、将来、非常に有望な地域となるかと思えます。

今後の将来展望・ビジョンについてお聞かせいただきたい。

もう一点、11 ページに「地域商社設立の検討・推進」とあるが、地域商社とは民間の商社を指すのか、それとも市で設立するものか、もう少し具体的に説明いただきたい。

事務局：重要物流道路に指定されることにより、取り組みが進むという点については、我々も聞いていたところですので、早期着工に向けて、ステージが一段上がったと感じています。

また、県道泉佐野打田線の 4 車線化についても工事が進捗しており、国道 24 号線から紀の川 I C までの 4 車線化が完成することで、紀の川 I C 周辺の地域は、市の北側の玄関口となります。

今後は、将来的な京奈和関空連絡道の実現を見据えてのまちづくりを検討する必要があることから、先ほど資料でも説明させていただきました、41 ページでは、紀の川 I C 周辺を中心としたエリア等について、紀の川市の得意産業である、農業の加工・出荷場の整備や機械産業等の製品の物流機能、観光農園、観光レクリエーション施設との連携など、紀の川市の魅力を活かし、地域経済が好循環するような活用方法の検

討について、構想づくりという形で進めたいと考えています。

次に地域商社というのは、地域の特産品、まだまだ知られていない産品やサービスの掘り起こし、地域内外へ売り込む企業の団体ということで、基本的に民間事業者となります。

地域商社の機能として、一次産業として生産者、加工等を行う二次産業、小売り・サービス業の第三次産業、こういった一次産業から三次産業までの事業者が連携して、地域産品の開発やマーケティングを行い、その商品の販路開拓を行うためのプロデューサー。また、商品を開発したのちには、他の地域との連携や、観光等の他分野とも連携して、販売を行うビジネスモデルをプロデュースするなどの機能を持っています。もう一点、地域商社はただ儲けるだけでなく、利益を地域へ還元するという特徴を持っています。設備投資の支援や開発・生産にかかるノウハウの提供など、地域にも貢献するといった形の事業所となります。

国の総合戦略等にも、地域創生にあたっては、地域商社の設立が重要な分野として掲載されており、市においても、例えば、基幹産業である農業を中心とした、加工品開発などに可能性を感じており、他業種も含めて総合戦略の期間内で検討を進めたいと考えています。

委員：説明を聞いて、既存のJA紀の里さんが、よく似ている形態だと感じます。新規で設立するよりは、JA紀の里さんとタイアップして、その機能を活用させていただくなどの取組は考えられないか。

事務局：新規設立だけでなく、JA紀の里さんを含めて、民間での直売、観光農園等に取り組んでいる様々な事業者さんも母体になる可能性はございます。

ただし、地域貢献という面で、事業者さんのご理解・ご協力も必要となるため、既存の事業者さんも候補に含めたうえで、検討を進めたいと考えています。

委員：JA紀の里は組合員主体での運営で、農業所得、組合員所得を向上させるために取り組むのが基本です。また、組合員のご理解を得ながら、取り組みを継続することが、農業協同組合の使命であることから、地域商社の性格とは少し方向性が違うと感じる面もあります。

委員：紀の川市では、農業関係でも、個人で事業を行っている方は多くみられますが、集合体での事業展開はないように思います。6次産業化に向けた支援・取り組みも積極的に行っていたらと思います。

委員：地域を元気にするのは地域の方だと思いますので、地域商社も一つの方策ですが、ぜひ地域のキーパーソンの人材を見つけ、タイミングよく支援していただければと思います。行政ばかりが、外から関与しても、殻をつついても、巣の中の卵からひな鳥はかえらないというように、機会を逃さずに、個人や事業者等を支えていただきたい。

また、県の定住推進課の方とお話しさせていただく機会があり、和歌山県に限ったことではないのですが、新型コロナウイルス感染症の関係で、Iターン・Uターンが増加に転じており、非常に追い風という状況にある。Iターン・Uターンへの支援にも大胆に取り組んでいただきたい。

次に、女性のハートに刺さる施策を検討していただきたい。結婚支援・出会いの場を作る等のPRは、行政の関与が難しい面はありますが、若い女性が集まるところには、男性も集まると思うので、様々なアイデアで取り組みを進めていただきたい。

この総合戦略の目標を達成していくためのアクションプランを策定する予定はるのでしょうか。

事務局：女性に視点を当てた支援については、特化して女性という言葉は掲載していませんが、例えば、潜在的な労働力の活躍を推進するといった面で、女性も含めた多種多様な対象への就労支援も検討しているところです。

また、婚活事業については、本年度はコロナ渦ということもあり、事業を中止せざるを得ない状況でしたが、来年度以降、出会いの場の創出事業に取り組んでいきたいと思っております。

次に、アクションプランにつきましては、現状策定の予定はありません。ただし、長期総合計画に基づいた施策を進めていくうえで、計画的な事業実施に取り組んでいきます。

委員：38ページ「病院施設を核としたサービス業連携」における目指す方向性というのは、どの様なものか聞かせていただきたい。

事務局：イメージとしては、紀の川市の場合であれば、公立那賀病院という大きな病院がありますが、通院等で人が集まる特性を活かし、周辺に小売業や飲食業等のサービス業が集まることで、連携が図られ、さらに人が集まってくる、こういった人が集まる核となる環境をつくり、消費の利便性向上と地域内での消費拡大を図ることが、目指す方向性と考えています。

委員：全体的な面で、計画を策定しそれを実際に実行するときには、それぞれの主体がしっ

かりと目標を共有し、それぞれの主体が行動に移すことが大事だと思います。

そういった意味で、今回の総合戦略は、第1期総合戦略を検証し、課題把握を行っています。課題に対する方策・改善策について、それぞれの主体にどのように投げかけていくのかを聞かせていただきたい。

事務局：計画を策定し、実行に移すことが重要であることは、十分理解しているところです。本総合戦略については、庁内の意思決定に関し、各部長が委員となる本部会議で審議を行い、各部署においても、総合戦略に基づいた地方創生に係る取組を進めることとなります。

また、取り組みに関する進捗管理や検証を行い、今後の課題と対応方向を整理するとともに、基本目標の実現に向けた施策の見直しや改善についても随時行いたいと考えています。

事務局：最後に、今後、広く市民の方々に意見を求めるため、パブリックコメントを実施していくこととなります。

本日、様々な意見をいただきましたが、審議終了後にも、お気づきの点等ございましたら、ご意見いただければと思います。

#### 【その他】

議長：まだ少し時間がありますので、各委員からそれぞれの分野・社会状況等についてご意見いただければと思います。

(特に委員からの意見なし)

#### 6. その他

事務局：本日も審議いただいた内容で、今後、パブリックコメントを実施し、意見を反映してうえで、再度審議会（第4回・3月上旬を予定）を予定しておりますので、よろしく願いいたします

#### 7. 閉会（15：10）